

今昔物語

昔話にまつわる場所が戸塚にあります。
物語に思いをはせながら現地に足を運んでみませんか？

まさかりが淵の約束ごと (汲沢町～深谷町)

汲沢町と深谷町の境に、まさかりが淵という美しい滝がある。昔この滝には大蛇が住んでおった。ある時、彦八という若い木こりが滝の上の山で木を切っている、その拍子にまさかりを滝つぼに落としてしまった。「しまった」と滝つぼをのぞくと、きれいなお姫様が機を織っている。「オラのまさかりが落ちてしまった。取っておくれ」と言う、姫は「私はこの主です。あなたのまさかりが、滝の大蛇にあたり退治してくれました。おかげで平和に暮らせます」と言って彦八を滝つぼの中の立派な御殿へ連れていき、三日三晩もてなしてくれそうなの。いよいよ彦八が家に帰るとき、姫は「私の姿を見たことは人に話してはいけません。もし約束を破れば命が亡くなります」ときつく言い聞かせた。家について彦八はたまげた。家には大勢の人が集まり念仏を唱えているではないか。すると父が「彦八、三年もどこに行ってたんだ。山に木を切りに行ったさきりで帰ってこないから、死んだと思ってたぞ。今日はお前のちようど命日なんだぞ」とたいそう怒っている。彦八は三日と生きていたが、三年の年月が経っていたのだった。姫との約束を守ろうとした彦八だったが、なにしろ父のすこい剣幕に、つい姫のことを話してしまった。すると彦八はばったり倒れ、息が絶えてしまったそうなの。

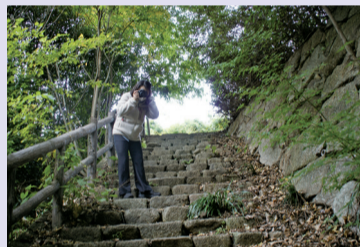


まさかりが淵市民の森 汲沢町

実際に現地に行ってみた!



まさかりが淵市民の森に到着。



写真を撮りつつ、階段を下りると滝の音が聞こえてきました!



滝を目の前に、マイナスイオンを感じて癒されます。



雪が降ると、こんな景色に! (2014年2月撮影)

ネコの踊場 (踊場駅周辺)



昔、水本屋という醤油屋に、トラというメスネコがおった。水本屋では、毎晩手拭いがなくなるという不思議なことが続いたが、誰が盗んでいるのか分からなかった。ある月夜の晩、水本屋の主人が村のはずれを通りかかると、丘の上から賑やかな歌が聞こえてきた。「こんな夜に誰だべ」とのぞくと、猫たちが手拭いをかぶって、ネコじゃ、ネコじゃ、わしゃ、ネコじゃ...と歌いながら踊っている。主人が感心して見ていると、「おいみんな、今晩は水本屋のトラがないな、どうしたんかな、トラがないとつまらないな」とネコたちがやおおと騒いでいる。そこへトラが手拭いをかぶって飛んできた。「遅くなってすみません。今晩、熱いおじやを食べて舌をやけどしちゃったのよ」とトラはみんなに舌を見せている。「なに、このくらいなら心配いらぬよ。さ、踊るべ、踊るべ」とネコたちはトラを囲んで踊り始めた。主人はたまげて飛んで帰り、かみさんに聞くと、「そうなのよ、トラはあわてておじやを食べて舌をやけどしたらしいの」

主人がネコの踊りのことを話すと、「そうだったの。トラも年頃だから若い衆と遊びたくて新しい手拭いが欲しかったのね」かみさんは、それから毎晩トラのところに新しい手拭いを置いてあげた。村人たちはこの話を聞いて、その丘を「ネコの踊場」と呼ぶようになり、そのあたりは今も「踊場」と呼ばれている。

踊場駅 泉区中田南 1-2-1

実際に現地に行ってみた!



市営地下鉄踊場駅の4番出口に到着。猫がお出迎えしてくれます。



普段、改札に向かって一直線だけど、たまには上を見上げてみませんか?



ちようどいい撮影スポット! 思わずさわりたくなりました。



いろいろなところに猫がいるから探してみてね!

◎ここで紹介した話は諸説あり、史実ではありません。◎出典、文献により内容が異なります。
◎文章は各種文献を参考に、独自の解釈をしたり、創作したところがあります。イラストは想像に基づくもので時代考証の面で行き届いていません。
【参考文献】戸塚の歴史散歩 (戸塚区郷土史跡研究所)、とつか歴史ろまん新装版第二版 (戸塚区役所 地域振興課)、泉区ホームページ「踊場」